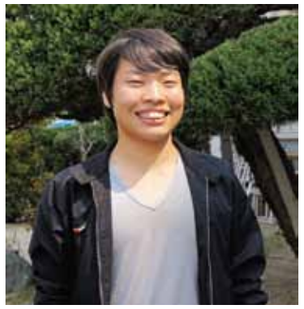
徳大生大活躍！

［取材］

様々な体験を通して実り多き学生生活を

総合科学部 社会創生学科 4年
成田 直翔（なりた なおと）



知りたいと思えば挑戦する。そんな姿勢の成田さんは、新しい発見、新しい出会いを求めて、アクティブな学生生活をおくっています。特に専攻の関係もあり「まちづくり・まちおこし」に興味を持ち、「まちづくりグループ」の大学生スタッフとして、例えば、書道教室、震災復興ボランティアといろいろなイベントに参加してきました。

そんな中、昨年成人になって投票権を得た成田さんですが、あまり政治には興味がありませんでした。ところが同世代の若者も同じで、投票率が低いことを知りました。「まちづくりグループ」では若者の投票率向上に取り組んでおり、その中で学ぶうちに、

「若者が選挙に関心を持つことの重要さがわかりました。若者向けの政策もあるわけです。投票しないということは、自分の意見を反映できないわけですから損をしていますよね」と、学生を対象に

選挙や投票の仕組みをまとめてプレゼンテーションを実施したところ、関心のなかった友人の多くが投票してくれたそうです。

次なる新たなチャレンジとして、内閣府が主催する「青年の船」に参加。10～30才の日本人120名、外国人100名の若者が、英会話も含めた厳しいテストを乗り越えて参加しました。成田さんは北島町（板野郡）にある徳島大学の留学生寮で、留学生をサポートするアルバイトを経験し、英会話もできるように努力していました。

今年、2月4日から10日間、東京を出発して沖縄や神戸を経て、震災のあった岩手の大船渡を巡り、それぞれ2泊の現地行動で、企業訪問や観光を含めて地元の人たちとの交流を体験しました。船内ではグループに分かれ、テーマを決めてディスカッション。成田さんのグループは「環境と企業の社会的責任（CSR）」をテーマに。その他、高知のメンバーとともに「四国お踊り隊」として、阿波踊りやよさこい節を披露。

終了後はグループごとに海外に。成田さんたちはニュージーランドへ一週間。「青年の船」への参加は、様々な体験と異文化交流など、大きな経験と成長の糧となりました。

「日常にはないことの連続で、大きなエネルギーをもらいました。日本の文化を見直すきっかけにもなりましたし、参加した人はみんな意識の高い人たちで、何らかのボランティアをやっていて刺激されました。社会貢献への意欲もさらに高まりました」

今年の選挙も、昨年の経験を生かしてさらに多くの若者に訴えていきたいと。また社会に出ても、

「働くこと自体が社会に貢献できるような、常に前向きの姿勢でがんばっていきます」と、抱負を語ってくれました。

工学部 光応用工学科 4年
黒木 菜緒（くろき なお）

オーストラリアに行ってシドニー市内を探索しました

こんにちは。今号のマイキャンパスライフを書かせていただくことになりました、工学部光応用工学科の4年生の黒木菜緒です。大学進学と同時に地元福岡から徳島にやってきました。そんな私の大学生活を紹介させていただきます。

これを執筆している現在、私は配属される研究室が決定し、今まで一緒に授業を受けていた友達と離れ離れになり、新しい環境の中で慣れない実験器具に悪戦苦闘する毎日です。他にも引退したにもかかわらずまだサークルに顔を出したり、大学院入試とTOEICに向けての勉強、アルバイトなどそう特別ではないですが、充実した毎日を送っています。

そんな私が大学生活のテーマとしていること、それは「挑戦」です。なぜ、私がこれをテーマにしているかというと、とんでもなく優柔不断だからです。かつての私は好奇心旺盛なくせに、いろいろと他のことを考えてしまって飛び込んでいく勇気がないという人間でした。そんな私がこのテーマを掲げるきっかけとなったのは2年生の時に参加したオーストラリアのツアーでした。これは私にとって生まれて初めての海外となり、言葉では言い表せられないほどの感動を得たのと同時に自分の視野の狭さを痛感しました。そのときに興味のあることないこと関係なく経験は自分の大きな財産になること、大学生という自由で融通の利く立場を最大限に利用しないともったいないことを強く感じました。それから少しでもやってみたいと思ったことは後先考えずに挑戦するようにしました。

そんな自分が何をやりたいかを考えるきっかけとなったのは、3年生のGWに福島の被災地へボランティアに行った時でした。当時私は、資源のない日本にとって原発をなくすのは無理だと思っていました。しかし、津波の被害を受けた南相馬市に行ったときにたまたま今は荒地でしかないその土地にかつて住んでいたという男性にお話を聞くことができました。その方は涙を浮かべながら当時のお話をしてくださいました。その時に私は強く思いました。今原発の賛否について世間で問われているけれど、大切なのは賛否ではなく、なくすためには何をしなければいけないかの方ではないかと。一般の人は知識や技術がなくてあたりまえなのだから、今立ち上がらなくてはいけないのは我々技術者ではないかと。それから私の夢は人のための研究をすることになりました。

なんて偉そうなことを言っていますが、まだまだ未熟で知識も何も持っていない私です。しかも今は卒業研究というスタートラインに立ったばかり。だからこそ立派な技術者になるために今、研究と大学院入試に向けて必死に挑戦していこうと思います。

ボランティアにいったメンバーと一緒に（本人前列右から2番目）後ろに映っているのは仮設コンビニです。

My Life Situation

サークル：演劇部
アルバイト：ファーストフード店